

# 人は神様から 生まれているから、 私たち人間はみんな神

古神道修道士 矢加部幸彦

今年2月に、待望の著書『神ながら意識』を世に送り出した矢加部幸彦氏。日本人の中に自然と備わっていた、神ながら、という生き方、私たちが神の子であるということに気づくことが大事だとを説く『神ながら意識』について、お話を伺った。



矢加部幸彦

Yuka Kabe

【人物】とはの会」主宰、古神道修道士、神道音楽家、セフピスト、読者の声より賞状を授けられた（古神道修道士・松尾正樹の師範生）人間の精神の不思議さに興味を持ち、精神世界の研究を始める。大学卒業後は製薬会社に入社し、人材開発部門に所属しながら、企業内古神道サークルも担当。平成7年に独立。古神道の神との神神により行を営む。現在は東京有馬神社と併せて独自のメソッドを確立し、古神道修道士として全国でワークショップを開催中。http://kamuyog.com/yimbokoblog/



取材・文・須田真希子

少しでも日本を取り戻せたら  
という思いで書かれた本

——先日、初の著書『神ながら意識』を上梓されました。この本をご執筆されることになったいきさつを教えてください。

矢加部 多くの方々には、神ながら意識について知っていただきたいと思い、ブログで発信したり、講座で直接話をしました。受講生からは「ここで話されていることを本にしたいのですか」と、数年前からよく聞かれていたんです。確かに、講座になかなか来られない方もいらっしゃいますし、それならブログや講座の内容を1冊にまとめようということになり、数年前で実現することになりました。

——神道「神ながらの道」をご研究なさっている矢加部さんのお言葉は、日本人なら誰もが共感する内容だと思いました。

矢加部 日本人は昔から、神ながら意識、で生きている民族です。戦前までは、ほとんどの人が建国の歴史や皇紀（日本独自の歴史）を理解していました。ですが、いまはそのような当たり前がなくなっています。日本人の中にもっとも

たちの目を向けてみてはいかがでしょうか、という気持ちで、微力ながら「少しでも日本を取り戻せたらいいな」と思い、この本を書かせていただきました。

——日本人は、神様とても近い関係にある民族なんですね。

矢加部 神ながら意識は普遍的な思想で、日本独特のものではありません。ケルト人やアフリカ、ネイティブ・アメリカンにも、争いのない共存共栄の精神や、宇宙との調和を尊ぶ精神があります。それは、神ながら意識そのものと言えます。

ただし、そういった精神をもった民族で、国家をもっているのは日本だけなんです。日本は、「王朝交代の形跡がなく国が存続している」世界最古の国であり、神話が生き残っている唯一の国でもあります。奇跡のような国なのに、この国で生活している人々は、そのことすらわかっていない。「自分は日本人だけ」といった何者なんだらうか」という、記憶喪失状態になつていく。だから今の状況、講座で私の話を聞いてくださった方々は、「ああ、そうだったのか」「前に落ちた」「日本に生まれてよかった」とおっしゃるんです。現実には、生活の中で何かが大きく変わるわけではないと思いますが、日本人としての自分

の種が、何となく見つかったこと感じられる方が多いようです。

——日本人は、外国の方に「自分の国のことを話してください」と言われても、上手に説明できないとよく言われますよね。

矢加部 自分の国がわからないから、自分のアイデンティティを見失って不安を感じる。でも、なぜ不安なのかすらわからない。その不安を解消すべく、自分探しのセミナーが流行るわけです。日本はど自己啓発系のセミナーが盛り上がっている国はありませんよ（笑）。

——「神ながら意識」には、「人間は神から生まれた神である」と書かれています。びっくりしたと同時に、読み進めていくうちに、とても顔に落ちた感覚がありました。

矢加部 そもそも人は、神様に宿依して生きるとも何もできないという、不完全な存在ではありません。「神ながら意識」の根幹になつていて、人は神様から生まれていますが、実は私たち人間もみんな神だと言えるのです。その自覚を少しでもみなさん思っています。神様と人間が親子の関係であることは、すなわち、

祖先を大事にするにつながり、いまの自分がいるのは、お父さん、お母さんのおかげ、さらに、おじいちゃん、おばあちゃん、さらにずっと先をたどって行けば、伊弉諾大神、伊弉册大神や天之御中主神がいます。そういうご先祖に感謝することは、未来の子孫のため、いまの自分たちがどうするべきかを考えることにつながります。ですから神様は、親に感謝するのと同じく、感謝をしに行くところなんですよ。

私たちが永遠の生き通し……  
直霊の心はすべて知っている

——著書の中で、矢加部さんは「利益信仰にだけ意識が向いたパワーストロボームは残念」ともおっしゃっていますね。

矢加部 神様は感謝をしに答えるところですが、子が親にすがることが多く、神様に何かをお願いするといふのも自然な気持ちだと思います。神様は、私たちがお願いするのと同じくらい、あなたもお願いしています。でも、あなたが「あなたのお願ひ」とはよくわかりました。どうもありがとうございます。その願ひを全部はままだし、その願ひを全部はままだし、ありませんから、エネルギー的なサポートはしてあげたい。地上では何もできません。ですから、手足をもった神として生まれ

てきた人間が、働かないといけません。

「古事記」に「この漂える国を作り固めなせよ」とありますが、これは、未完成を完成にしていかなさいという意味です。より良き未来のために、より完成へと向かって働く（務を遂げる）ことです。これが私たちが人間の使命です。

——人は、神の子として、神様がなさっているように、神様が「ますます栄えていくこと」のために働かなくてはいいくないですね。

矢加部 有機体（人間の肉体）は変わっていきませんが、魂は永遠の生き通しです。完成には終わりがありませんから、「弥栄のためにやれよ」というのが神様のご意向です。ですが現代の日本人は、「直霊の心」（私たちの肉体、真我、永遠不滅の我）を見失っている。自分さま良ければいいという考えに死がちなわけです。でも、ちよっと自分自身を振り返ってみれば、本能として直霊の心をもっていることに気づくはずですよ。たとえば、親が子を育てる心や他人との譲り合いの心などです。それは言うなれば、神から生まれた人間の原点なんです。迷った時はぜひ、原点に立ち返ってほしいですね。特に、「古事記」には素晴らしいことがたくさん書かれています。



ますよ。

——「古事記」に記されていることを始め、日本人としての原点に還るために、「神ながら意識」はとてもいいガイドになるのではないかと思います。この本を出版されて以降、これからの活動についての展望を教えてください。

矢加部 「神ながら意識」は道を問うた本です。ここでも、その道を進むための具体的な内容に触れてほしいですが、もう少し踏み込んだような、日常生活の中で、神ながら意識、とともに歩くためにはどうしたらいいか、という内容の本を書きたいと思っています。意識や心の在り方からめながら、単なるハウツーに留まらない術を、みなさんに発信できたらいいですね。